

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

弥生 月次祭挨拶

サルートン、皆様こんにちは
本日は足元の悪い中、弥生
月次祭と尾張戸神社遙拝祭に
ご多数の方々に参拝して頂き
誠にありがとうございます。

三月に入り気温も上昇し春
の気配が感じられるようにな
ってきましたが、近年では東
京辺りでも雪が降る異常気象
になっています。

三月一日・二日と東海サミ
ットが岐阜県主催で以前に
名古屋分苑で利用いたしまし
た、グリーンパレス春日井で
行われました。

今回のテーマの「ご自身
ご神徳(おかげ)話を交流し、
後継者育成や宣教活動に生か
す」を機関長グループでは話
し合い、宣伝使に拜命された
ら、み手代お取次ぎをしてご
活躍して頂く、信者さんから
相談事を受けたらず、親身

になってお世話をさせて頂く
ことでまとまりました。

来年、令和八年は名古屋分
苑の主催で二月二十八日土曜
日と三月一日日曜日に東海サ
ミット開催で日程を取あえず
設定いたします。

今年度の宣伝使拜命者と昇
進者を合わせると十一名の方
達の申請書を受け付けており
ますが、まだ、推薦できるお
方がいらつしやれば、最終受
付の四月五日の月始祭でまで
に申請をお願いいたします。

先月二月は天界へ帰られた
方々が三名おられました。

一人目は今の名古屋分苑の
看板をお書きになられた大宮
正彦様、二人目は故松崎神明
様の先輩で浅野吉章様、三人
目は旧分苑時代、会計と直心
会長を歴任された山田美智子
様です。

今回の葬儀は三人とも場所
は違いますが葬儀会館テア

で大本葬祭にてお送りいたし
ました。

大本葬で葬儀を希望される
方は、エンディングノートに
誄詞の原稿をお書きになり何
時何時お迎えが来ても良いよ
うに準備をして頂きたいと思
います。

節分の人型活動が一息つい
たと思えば、令和八年度人型
用紙の申し込みが本部より届
いています。各支部の棚に申
込用紙が入れてありますので
宜しくお願いいたします。

本部に申込最終日は五月十
五日です。五月月始祭までに
は必要枚数を記入して提出し
てください。

型代の証は来年度から変わ
りますが在庫から使い切って
下さいと本部から要請があり
ましたので、来年度の申し込
みで配布させて頂くときには、
両方を混ぜて分配いたします。

本日は、直心会総会、機関
長会議・研修会、愛善歌練習
と、春季大祭の打ち合わせも
予定が組まれていますので宜
しくお願いいたします。

行事報告

全国的に花粉症が流行して
いますので健康には気を付け
てお過ごし下さい。本日のご
参拝誠にありがとうございます
でした。コーランダンコン

●月始祭

三月一日(土)

参拝者 十二名

斎主 見田 すみ子

祭員 堀 和子

祭員 森 テル子

祭員 飯田 直美

祭員 高嶋 フミ子

祭員 飯田 直美

祭員 飯田 和彦

祭員 堀 健太郎

祭員 畠山 茂

祭員 仙頭 志音

祭員 伊藤 久仁男

祭員 小林 清人

祭員 飯田 直美

祭員 佐古 美鈴

祭員 澤田 淳

祭員 長谷川 美枝

祭員 天野 静子

祭員 天野 静子

祭員 天野 静子

●月次祭・尾張戸神社遙拝祭

三月十六日(日)

参拝者 四十三名

斎主 飯田 和彦

祭員 堀 健太郎

祭員 畠山 茂

祭員 仙頭 志音

祭員 伊藤 久仁男

祭員 小林 清人

祭員 飯田 直美

祭員 佐古 美鈴

祭員 澤田 淳

祭員 長谷川 美枝

祭員 天野 静子

直会后、機関長会議・研修
会が開催され、分苑長による
「令和六年度決算」報告、堀
特任による「葬祭実践手順に
ついて」の研修を受けた。



行事予定

四月二十日(日)

春季大祭・祖霊合同慰霊祭
午前十時より

四月二十六・二十七日(土日)

分苑誠心会 綾部献勞奉仕

五月三日(土)

月始祭・みろく大祭遙拝祭
午後一時半より

忍び草

城北分所

宣伝使 山田日出男 毘古

享年 九十一歳

令和七年三月二十三日 帰幽

謹んで哀悼の意を表します

第27回 東海サミット開催（岐阜主会 主催）

名古屋分苑より9名参加 東海教区から62名が集う テーマについて活発な意見交換が行われた



分科会



第27回 東海サミット（令和7年3月1日 於：グリーンパレス春日井）



分科会まとめ 発表

テーマ

1. ご自身のご神徳（おかげ）話を交流し、後継者育成や宣教活動に生かす
2. 今、困っていること、その解決に向けて
3. 各部会の取り組み

[3月1日、午後1時～5時]

○開会式

礼拝・開会宣言（増田主会長） 野田総代挨拶

○基調講話 前田特派

香良洲神社除幕式・合同祭典（奉納の儀）報告

○分科会

五班に分かれてテーマについて話し合い



基調講話

[3月2日、午前9時～11時半]

○発表

分科会のまとめ（各班） 前田特派から総評

○連絡事項

富士山観桜茶会（静岡） 錬成道場（三河）

香良洲神社正式参拝（三重）

○閉会式

じいじの道草雑話【早春】

特任宣伝使 妹尾正治

令和七年三月十三日、新聞紙面に「早春」の文字を見つけた。「早春」たった二文字の言葉が、冬の間に雪の様に積もった辛いこと、淋しいことを解かし、心を和ませてくれる。

今年の冬のトンネルは長い、三日前に都心に雪が積もった、我が家では今でも朝一番にストーブのスイッチを押すのが日課である。

テレビで桜の開花予想日が流れ始めた・・・春だ！

日本の春には桜が良く似合う、開花は河津桜から始まり染井吉野桜・八重桜と続き、ひと月半はお花見が楽しめる。

日本三大桜を調べてみた、どの桜も樹齢千年を超えている。

福島県の三春滝桜（樹齢千年以上） 岐阜県の根尾谷薄墨桜（樹齢千五百年） 山梨県の高山神代桜（樹齢二千年）

二千年前と云うと弥生時代になるらしい、そんな太古に芽生え、数えきれない過酷な自然環境にも耐え、毎年花をつけて人々を和まし続けている。

何千万何億万人を和ませそつと勇気づけてきたこの桜に比べ、人間はなんて愚かで醜い生き物だろう。

二十一世紀に入っても、まだ殺し合いの戦争を続けている。

神代桜は我々にこんな風に語りかけているに違いない『憎み、恨み、争いをやめ、嘆き苦しんでいないで来る春を夢見なさい。あなた達には苦境を乗り越える勇氣と力を神様から頂いているのだから。私もそうして生きて来た・・・』

屋久島には大先輩の樹齢七千二百年の縄文杉があると云う、今年も新芽を育んでいるに違いない。彼は私達に何を話しかけているのだろうか？